

## 別記様式(第4条関係)

## 会議録

会議の名称	令和3年度 第3回 加東市社会教育委員の会議
開催日時	令和4年1月19日(水) 10時00分から11時15分まで
開催場所	加東市社公民館 2階 研修室
議長の名 ( 神戸 滋和 ) 出席及び欠席委員の名 ○出席 ・神戸 滋和委員長 ・荒木 勉委員 ・藤尾 桂子委員 ・竹内 守男委員 ・近澤 玉幸委員 ・土肥 昭彦委員 ・柿本 美穂委員 ・堂下 哲子委員 ・村上 昌弘委員 ・長谷川 貴典委員 ○欠席 ・安原 一樹副委員長 ・大橋 洋子委員	
説明のため出席した者の職氏名 ・教育振興部長 田中 孝明 ・中央図書館 館長 田中 美紀子 ・人権協働課 課長 西山 太 ・生涯学習課 課長 長田 徹 ・ 同 市民スポーツ係 副課長 藤原 武 ・ 同 滝野公民館 館長 松本 美香 ・ 同 東条公民館 館長 竹内 喜博	
出席した事務局職員の名及びその職名 ・生涯学習課 副課長 三和田 剛浩 ・ 同 主査 福島 奨平	

## 議題、会議結果、会議の経過及び資料名

### 開会

1 あいさつ 神戸委員長

2 協議事項

(1) 「社会教育事業実践への手引き（案）」の作成について（資料1）

資料1に基づき説明

#### 【質疑応答】

手引き書の構成について

委員長： 良かったのは、巻末資料の解説、日常生活の快さ・充実感のところ。特に59ページの絆づくりの「理解」と「承認」の図は、コミュニケーションの共通理解を得ておくために必要。56ページの快さ・充実感の内容を説明するときにはしっかりと理解してもらえるようにしたらいいと思う。

皆さんもそれぞれ感じたことを言っていただきたい。

事務局： 内容を読んでいただいた感想やこの方向で修正が必要等の意見があれば、これを踏まえて、次回に完成という形にしたい。まず、この内容でよいか承認していただけるかどうかということも踏まえて、ご意見いただきたい。

委員： 各種団体に説明をするとのことだが、各種団体とは、どんな団体があるのか。

事務局： 例えば、まずは子ども教室の実施にあたって、指導者に読んでもらい、教室の運営に活かしていただくこと。また、加東市の子ども会、婦人会、などの団体において、事業を実施している方々、加東市が実施している子どもや高齢者向けの様々な事業を企画、運営する行政の担当者や指導者にも読んでもらい、活かしていきたいと考えている。

委員： なかなか難しい。一読してもよく解らない。そのため、これを各種団体のところに持って行ってもなかなか難しいと思う。単純化してわかりやすいものでなければいけないと思う。同じ言葉の繰り返し、同じ形式で書いてあるので理解しにくい部分が多いと思う。ただ手引き書はこのような形のものと理解はしているが、やはり難しい。

事務局： これを読んですぐに実践に活かしていただけることは難しいと思うが、この手引き書に書いてある内容の要素を抜き出して、それをひとつでも活動の中に活かしていただきたい。それが今後広がったり、理解する人が増えたりする中で、より社会教育のねらいにそった事業が実践で

きるようになってほしい。

子ども教室の指導者にこれを読んで、全て取り組んでほしいということではなく、この中からそれぞれの教室運営の際にこのポイントを意識して、実施してほしいという説明を考えている。

これから時間をかけてより良いものに修正、それから加東市の社会教育をよくするツールという形で活用していただきたい。

委員： 丁寧で細かいが、同じ言葉、同じ文章、内容も一緒に続けて出てくる。例えば9ページの留意事項の留意点、これもややこしい。上下にすぐに同じ言葉が出てきているので、整理、省略してもよいのではないか。

もう1つは、12、13ページの図2、図3は、指導者がこうしていくという順序、指導案のように感じた。これは指導者として、この方向で全てに重点をおいてという事ではなく、その事業の目的によって重点を置くべきところが違ってくるということだと思う。左の列と右の列で矢印もあるが、左右の関連がわかるように、線でつないでどうか。

指導者としての留意点を中心に説明、具体的なポイントの説明もあり、全体としてはこの流れでいいと思う。

委員： この手引き書を読む主な人は、教育委員会、学校の先生、議員、スポーツ・文化関係の指導者等が中心だと思う。それから一般の方も読まれると思う。

易しく、見やすく、丁寧、説明がわかりやすく書かれているが、確かにもう少しすっきりした方がいいと思う。図を見ると安心する。起承転結のようなこともできている。手引き書という、導く、案内するという位置づけ、方向性は間違っていない。例えば、アメニティという言葉に、下に※があり、大体のニュアンスがわかるように書いてあるのが非常にいい。また、野球、三人バスケット、懇親会パーティというのも印象に残っている。

もう少しすっきりとできたらとは思いますが、ほぼ合格、完成に近いと思う。

委員長： ご意見いただいたご指摘のところは修正していくという方向でいかせていただきたい。

2点目の全体の内容についての意見も含めて、このように修正していくべきだという意見をメモで書いていただき、次に活かしていくことにさせていただきたい。

### 3 報告事項

#### (1) 加東市社会教育施設長寿命化計画(案)(資料2)

## 資料2に基づき説明

### 【質疑応答】

委員： 全体の内容は納得。30年程前からお願いをしているが、この施設の長寿命については、人間と同じで長寿命より健康寿命の方が重要である。この場合も図3のように施設に対して、こういう形でフォローしていけば長くもつだろうと、長くもてばいいのではなく、使い勝手の方が十分に活かされる、これが健康寿命だと思う。

そうすると、延べ人数だけではなく、市民4万人のうちの何人が使用しているのかという資料がほしい。30人のグループ、同じ人が20年間ずっと使っている、これで長寿命化をはかって意味があるのかどうか。やはり使い勝手が市民の期待に応じるための大改修を行い、中身を変えていく、それを含めて加東市においては長寿命化をはかっているというのが必要ではないか。

これとは別で、施設に関しては、4万人の中で性別、年齢別で見ると、こんな形で使われている、使われないのはどういう理由か、それを常にリストアップできるような形で施設管理をしたら、もっと市民は意味を感じると思う。また、平素からそれぞれの地域に来られる方々の要望を把握してほしい。

事務局： 社会教育施設の目指すべき姿の3つの視点、快適性と環境の適応の中にやはり使っていただく方の使いやすい施設であるということが必要である。そうすると、どういったニーズがあるか、十分に理解する必要もある。延べ数ではなく、どれだけの方が実際に使われているか、色々な事業から集計を取っていくなど、様々な方法をやっていきなさいと思っっている。そのため、長寿命化の改修というのは単にその施設を維持、保全するものでなくて機能を向上していく視点があるので、十分に検討しながら改修の内容というものを今後反映させていきたい。

委員長： 施設の健康寿命というのは今日教えていただいたが、実際の地域社会に貢献できるようにお願いしたい。

委員： 大規模改修、補修という考え方があるとなれば、例えば、19ページ、地区の公民館では、補修の際に修繕する箇所が大きくなってしまうと、結局余計にお金が必要で大変である。長寿命化とあるが、維持というのも考えていく必要があるのではないか。劣化が進み、一度にできないことはわかっているが、よろしくお願いしたい。

事務局： 当然ながら維持改修がある。実際に運営していきながら、早期に改修しなければいけない部分は何年か後の改修を待たずにやっていく必要

があるので、維持と長寿命化のバランスを取りながらしっかりと管理していきたい。

(2) その他

- ・令和3年度兵庫県社会教育研究大会についての報告（資料3）

11/29（月）：兵庫県立のじぎく会館

事務局から報告

4 その他

- ・第4回会議

日時：2月16日（水）、25日（金）のいずれかの日で調整

10時00分～

場所：滝野公民館 1階 研修室

閉会 神戸委員長

令和4年3月18日